



統計委員会基本計画部会第3WG
政府統計共同利用システムの活用
及びオンライン調査の推進

平成25年6月

総務省統計局 統計情報システム課

平成24年度統計法施行状況報告（概要）

統計調査等業務の業務・システム最適化計画に基づき、以下の事項を実施

- 共同利用システム等を活用し、府省間でのデータ共有や提供を推進
- 最適化計画の実施評価報告書の作成等を通じて、同計画に基づく各種の取組の進捗状況について、毎年度フォローアップを着実に実施し、最適化計画や共同利用システムに関する諸課題の的確な把握を行い、必要に応じ同計画の見直しを行う。

24年度実施状況等

- 政府統計共同利用システムにおいて、各府省の統計データを登録し、政府統計の総合窓口（e-Stat）から一元的に提供。
登録データ数（25年3月末）
 - ・ 統計表：約460統計の統計表約50万表
 - ・ 統計情報データベース：基幹統計40統計及びその他9統計の統計表約6万表のデータ
- 最適化計画について、平成23年度の各府省の実施状況のフォローアップ調査を実施し、実施評価報告書をC I O連絡会議決定。（24年9月）
- フォローアップ調査や最近の統計データを巡る動きを踏まえ、平成25年度の最適化計画改定に向けた検討に着手。

最適化計画の今後の方向性

ー オープンデータの高度化への対応ー

- 統計情報を含む公共データについて、政府等が保有する多様で膨大なデータを、機械判読に適したデータ形式でインターネットを通じて公開するなどオープンデータの推進を政府全体として進めているところ。
(※「世界最先端IT 国家創造宣言について(平成25年6月14日閣議決定)」、「電子行政オープンデータ推進のためのロードマップ(平成25年6月14日IT戦略本部決定)」等)
- このような動きを踏まえ、e-Statの統計情報データベースに蓄積されている統計データについて、平成26年度にAPIを用いた提供を可能とする機能を追加するなど、オープンデータの取組を推進。

(参考)

API機能を含む今後の総務省における統計オープンデータの高度化に係る取組を整理し、平成25年5月28日に公表。

API機能については、(独)統計センターの運用する「次世代統計利用システム」上で平成25年6月10日から試行提供(<http://statdb.nstac.go.jp/>)を開始。

政府統計の総合窓口 (e - Stat)

The screenshot shows the e-Stat website with the following elements:

- Header: e-Stat logo, "数字で見る日本", and "e-statは、日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイトです。"
- Navigation: "統計データを探す", "地図や図表で見る", "調査項目を調べる", "統計サイト検索・リンク集", "ログイン"
- Search Section: "統計データを探す" with sub-options like "主要な統計から探す", "政府統計全体から探す", and "キーワード検索 (条件指定)".
- Map/Chart Section: "地図や図表で見る" with sub-options like "地図や図表により統計データを'見える化'できます。", "図表で見る日本の主要指標", "都道府県・市区町村のすがた", "地図で見る統計 (統計GIS)", "統計年鑑等の統計書 (総務省統計局)".
- Survey Section: "調査項目を調べる" with sub-options like "統計データの基本となる用語やコードを説明しています。", "統計に用いる分類 (産業、職業等)・用語", "市区町村名・コード", "調査項目を探す".
- Ranking Table: "統計キーワード" table with columns "利用件数" and "キーワード".

統計キーワード	利用件数	キーワード
1	378	人口
2	319	国勢調査
3	149	都道府県別人口
4	89	家計調査
5	86	都道府県

統計表のダウンロードや、人口ピラミッドをはじめとした様々なグラフを作成できます。

地域で見る統計 (統計GIS) を使うと、地域のすがたがよくわかります。

統計調査の調査表や調査項目などを詳しく調べることができます。

・統計表

政府統計約460統計
統計表約50万表

・統計情報データベース

基幹統計40統計及びその他9統計
統計表約6万表

□ アクセス数

約4000万件 (24年度)

※クローラによるアクセスを除くと約1800万件

□ 利用者の傾向分析

個人: 約50%

官公庁: 約15%

大学等教育機関: 約10%

学術研究機関: 約3%

民間企業: 約22%

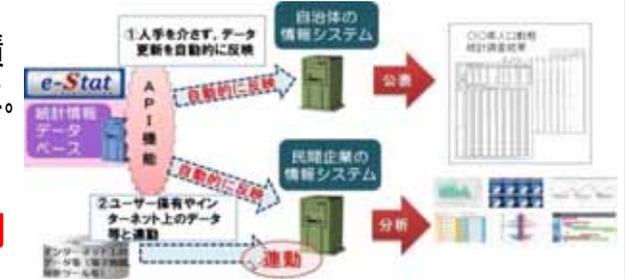
- 平成26年度にAPI機能を付加。
- API機能の実装に当たっては、ユーザビリティの向上を図る。(必要な経費を26年度概算要求予定)
- API機能の実装・運用と並行して、統計情報データベースへのデータ登録について、各府省の協力が不可欠。

統計におけるオープンデータの高度化

□ 総務省統計局は、(独)統計センターと協力し、大量・多様な統計データの高度利用を可能とする取組を先導的に実施

1. API機能による統計データの高度利用環境の構築

政府統計のポータルサイト『e-Stat』に、新たにAPI機能を付加するとともに、蓄積された統計データを機械判読可能な形式に変更することで、次のようなことが可能に。
利用者の情報システムにe-Statのデータを自動的に反映
ユーザー保有やインターネット上のデータ等と連動させた高度な統計データ分析
平成25年6月10日からユーザー登録制で試行提供(<http://statdb.nstac.go.jp/>)を開始(統計局所管の統計データによる試行提供によって機能やシステム負荷の検証を実施。)



2. 統計GIS機能の強化

e-Statの統計GIS機能を強化し、ユーザー保有データの取り込み分析や任意に指定したエリアにおけるデータが利用可能になるような機能を開発中。
本年秋を目途にユーザー登録制で試行提供を開始予定。
(統計局所管の統計データによる試行提供によって機能やシステム負荷の検証を実施)



3. オンデマンドによる統計作成機能・方策の研究

公的機関や学術研究などの利用において、利用者が調査項目を選択するだけで統計結果を自動的に出力する、新しい形の統計提供サービスを研究中。

これにより、既存の結果表にない任意の多重クロス集計が出力可能になり、学術研究を始めとする多様なニーズに対応。



新たなIT戦略等における統計データを巡る動き (参考)

世界最先端IT 国家創造宣言について(平成25年6月14日閣議決定)

Ⅲ 1 (1) オープンデータ・ビッグデータの活用の推進

公共データの民間開放(オープンデータ)の推進

公共データ(行政が保有する地理空間情報(G 空間情報)、防災・減災情報、調達情報、統計情報等)については、オープン化を原則とする発想の転換を行い、ビジネスや官民協働のサービスでの利用がしやすいように、政府、独立行政法人、地方公共団体等が保有する多様で膨大なデータを、機械判読に適したデータ形式で、営利目的も含め自由な編集・加工等を認める利用ルールの下、インターネットを通じて公開する。

このため、速やかに電子行政オープンデータ戦略に基づくロードマップを策定・公表する。

電子行政オープンデータ推進のためのロードマップ(平成25年6月14日IT戦略本部決定)

2 (2) 機械判読に適したデータ形式での公開の拡大

統計データについては、従来から「統計調査等業務の業務・システム最適化計画」に基づき、統計表管理システムの統計表の統計情報データベースを通じた提供の推進を含む統計情報データベースを通じた統計データの提供が推進されているところであり、引き続きこの取組を推進する。また、地理情報を活用した統計データの拡充を行うとともに、統計データの機械からのアクセス性等の利便性の向上を図る。

電子行政オープンデータ推進のためのロードマップ（工程表）

	平成25年度上期	平成25年度下期	平成26年度	平成27年度以降
	他の先進国と同水準のオープンデータの公開と利用を実現			
二次利用を促進する利用ルールの整備	実務者会議の検討を踏まえ、各府省ホームページにおける利用ルールの見直し(二次利用を認めるのを原則とし、制限のあるコンテンツは個別に表示) 全府省		その他のルールについて、考え方の整理に基づく対応 全府省	
機械判読に適したデータ形式での公開の拡大	統計情報データベースを通じた情報提供を含む統計情報の電子的提供の推進 関係府省		最適化計画(改定)に基づく取組の推進 関係府省	
	地理情報を活用した統計データの拡充、統計データの機械アクセス性等の利便性の向上 総務省、関係府省			
	統計情報データベース以外のデータも、今後インターネットを通じて公開するデータについて、機械判読に適した構造・データ形式でも公開(重点分野(白書、防災・減災情報、地理空間情報、人の移動に関する情報、予算・決算・調達情報)から優先的に取り組む。)併せて当該データのURLリストの公開も行う。APIの整備も考慮。 全府省		重点分野以外のデータについて、機械判読に適した構造・データ形式での公開を拡大 全府省	
			可能な部分からより高度なデータ形式での公開を順次拡大 全府省	
	コードの公開の促進、コードの対応関係の整理等の活用促進 全府省			
	組織によって異なる用語やその定義の標準化、ツール等の整備 内閣官房、総務省、経済産業省			
データカタログ(ポータルサイト)の整備	実証事業等によるデータカタログに求められる機能等の検討・検証 内閣官房、総務省、経済産業省			
	内閣官房、全府省 試行データカタログ(ポータルサイト)による公開		データカタログ(ポータルサイト)の整備・運用 内閣官房、全府省	
公開データの拡大	実務者会議の検討を踏まえ、重点分野について、公開するデータの拡大 関係府省			
	新規にインターネットを通じて公開するコストが低いデータや利用者のニーズ(要望)の強いデータについて、公開できないもの・二次利用が認められないものを除き、公開を拡大 全府省			
	実務者会議の検討を踏まえ、英語表記のコンテンツの充実 全府省			
普及・啓発、評価	有用な情報を紹介するサイト(リンク集等)の構築 内閣官房、関係府省		吸収	
	ニーズの発掘・喚起、新たなサービス・ビジネスの創出等のための普及行事の開催・参加等の利活用の支援 内閣官房、全府省			
	ニーズ・意見を把握し、取組に反映させる仕組みの構築 内閣官房、全府省			
	実務者会議の検討を踏まえ、取組の費用・効果の把握、評価を実施レビュー、フォローアップを踏まえた必要な取組内容の見直し 内閣官房、全府省			
	地方公共団体のデータの公開に関する考え方の整理・提示 内閣官房、関係府省		独立行政法人、地方公共団体等への周知・普及(有効事例の創出・普及を含む。) 内閣官房、関係府省	
実務者会議	取組の実施に当たって必要な事項の検討・整理 内閣官房、関係府省			
	レビュー、フォローアップを踏まえた必要な取組の検討・整理 内閣官房、関係府省			

最適化計画の今後の方向性

－ オンライン調査の促進への対応－

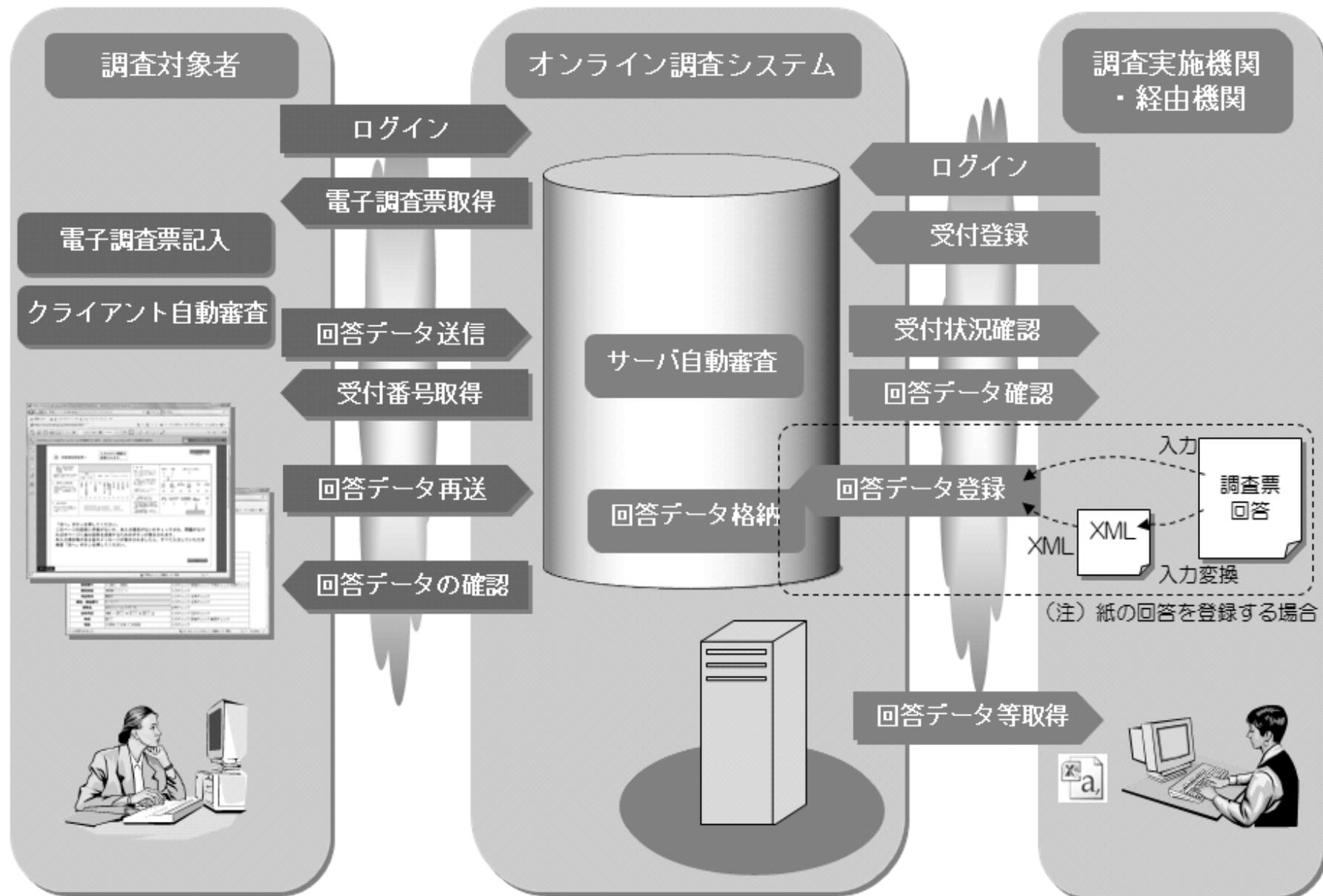
- e-Statを含む政府統計共同利用システムにおいては、オンライン調査に係る府省共通のシステムとして、「政府統計オンライン調査システム」を整備、運用。
- 平成23年度においては、企業や世帯を対象にした調査を中心に45調査で同システムを利用。また、費用対効果の観点等から同システムを利用せず既存の府省共通のNWや府省独自のシステム、電子メール等で実施したものも存在(74調査)
- これらのオンライン回答率の状況は以下のとおり。

形態	オンライン回答率	
政府統計オンライン調査システム	企業:約54% 世帯:約3%	主に、企業、世帯等が対象
府省共通のNW(霞が関WAN、地方公共団体NW)、 府省独自のシステム	約94%	主に、地方公共団体、教育機関、医療機関 等が対象
電子メール	約70%	FAXによる回答の代替など

※ 平成23年度最適化実施評価報告書を基に総務省において分析したもの。

- 平成24年度において、従来のExcel、PDF形式に加えHTML形式の電子調査票に対応。これにより、Webでの一般的な調査等と違和感を感じずに利用でき、回答の一時保存が容易になるなど利便性が向上。
- スマートフォン、タブレット端末等への対応を、平成27年度から一部調査で開始(28年度から本格的に導入)。

政府統計オンライン調査システム



統計調査等業務の最適化計画（概要）

参考 1

平成18年3月31日 各府省情報化統括責任者(CIO)連絡会議において
「統計調査等業務の業務・システム最適化計画」を決定

府省横断的なICT業務改革

各府省の情報システムの集約（各府省共同利用型システムの整備）

各府省で区々に開発・運用していた統計関係の情報システムを集約し、各府省共同利用型のシステムを整備、平成20年4月から運用。操作性等ユーザビリティに配慮した機能向上を図り、新システムを平成25年1月から運用開始。

母集団情報の管理及び標本抽出の共通化

事業所・企業を対象とする各種統計調査の母集団情報の管理及び標本抽出の共通処理基盤を整備。

統計調査のオンライン化の推進

現行の統計調査方式と併用又は代替が可能なオンライン調査を順次導入。

統計利用に係るワンストップサービスの実現

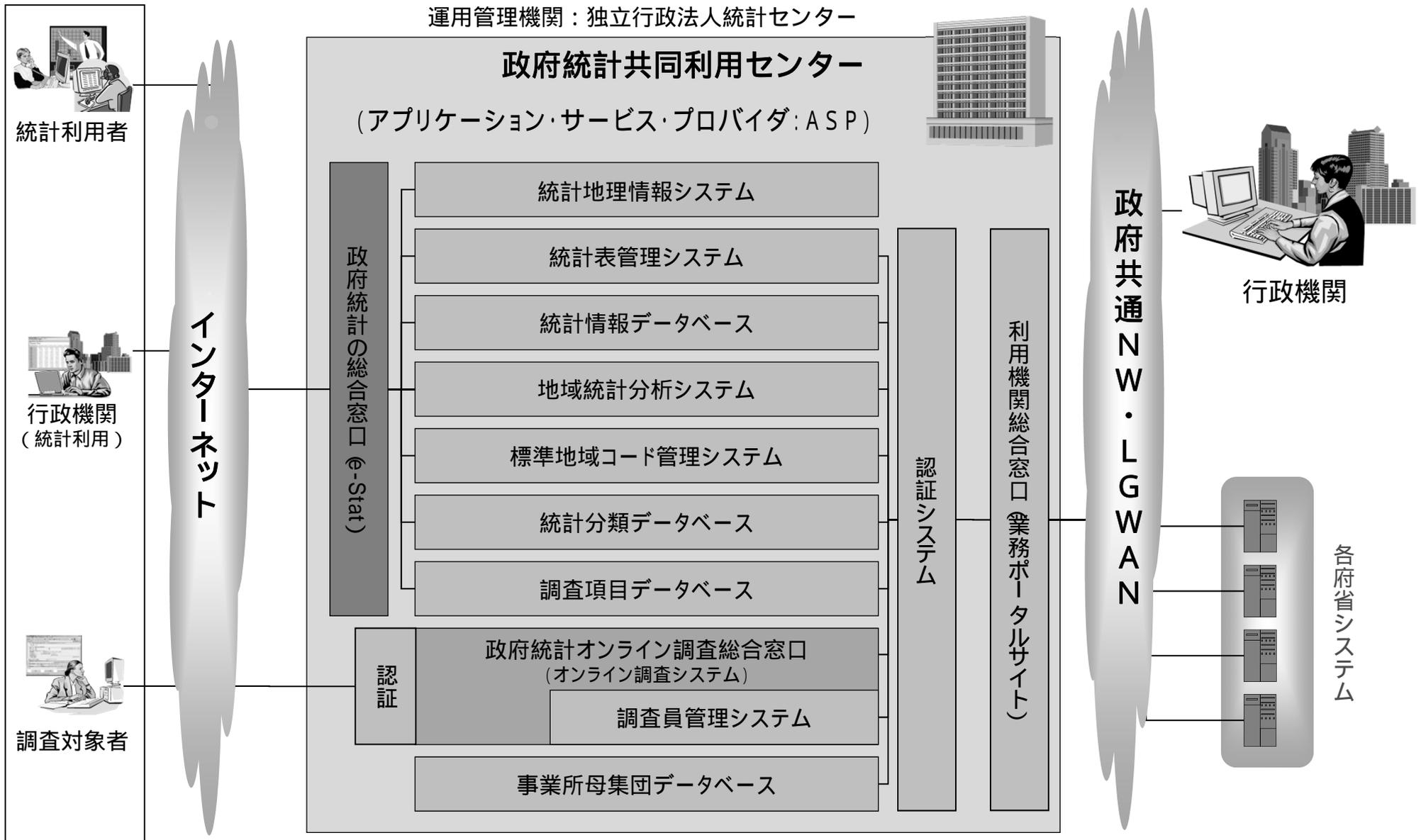
各府省のホームページの構成、用語等の共通化を図り、統計情報が一元的に利用可能なワンストップサービスを実現。

業務の簡素化・合理化

業務処理の共通化、一元化・集中化、取り扱う情報の標準化、外部資源の活用（市場化テスト・民間開放の取組を踏まえて今後更に見直し）等を推進。

政府統計共同利用システム

参考 2



※ASP：ビジネス用の情報システムをネットワークを通じて利用機関に提供する事業主体